

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

m 自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	さらなる安全・安心のまちづくり	加古川市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	さんぽでポイ活		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	チーム兵庫県立大学		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生		3
メンバー数 (公開)	3名		
代表者 (公開)	清水 絢華		
メンバー (公開)	中根 滉大、長 将来		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入➡○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容 (公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動(サービス)なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい**なる、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**ワクワク感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこちらです！を短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

加古川市が実施しているウェルビーポイントを活用し、加古川市が設置している見守りカメラがカバーできない領域に人流を生み出す仕掛けを構築し、人の目による防犯活動に繋げ、更に高齢者等のフレイル予防に繋げたい。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

私たちのアイデアは、より安心して暮らせる街づくりのために「**見守りカメラだけでなく、地域の人で町を守ろう!**」というものである。

【見守りカメラの現状】

加古川市南部の都地域では、見守りカメラや BLE タグ検知器の設置密度が高く、市内の道路や公園などについては、かなりの領域がカバーされている。これに対して、加古川市北部の人口密度や建物密度が低い地域では、これらの設置密度が低い状態である。そのため、認知症や障害を持つ方や子供たちなどが行方不明になったとしても、早期にこれらの人々を発見しづらく、また、犯罪行為のハードルも、都市部と比べると低い状況となっている。

もちろん、見守りカメラや BLE タグ検知器などの防犯関連の検知器やカメラなどの増設によって、検知領域を増やすこともできるが、農地や農業用ダム、ため池、里山、耕作放棄地の多い地域に、これらのハードウェアの増設はコストがかかる割に効果が少ないと考えられる。そのため、人々が活動することによって、見守りカメラの代わりをもらう。

【アイデアの概要】

現在、「かこがわアプリ」があり、スマートフォンにインストールすることで、「BLE タグ検知器」として機能させることができる。「BLE タグ検知器」は、これを持った人同士が通ると、保護者や家族は対象者の位置情報を確認することができる。将来的には、この機能と、「トリマ」や「楽天シニア」、「ANA Pocket」のような、歩いた歩数に応じてポイントを付与するサービスを、加古川市独自のウェルビーポイントで行うことを組み合わせ、見守り活動を促す。特に、見守りカメラの領域範囲外や、人目が少ない場所を歩くと、ボーナスポイントを付与することで、安全性が低いと想定される場所の見守りが強化される。また、歩くだけでなく、単純に滞在するだけでも見守り効果を果たすことができるので、歩数だけでなく、外出時間もポイントに換算できれば、より効果的である。さらに、単独世帯の人に対して、活動を記録しておき、普段の活動していた人が一定期間活動を行ってなかった場合に安否確認を行えるようにする。そうすることで、何かあった場合に早期対応が可能である。

以上が今回の理想的なアイデアの概要である。しかし、現在の「かこがわアプリ」では、歩数の測定や、自動的なポイント付与が出来ない。ウェルビーポイントを受け取る方法は、ボランティアなどの活動記録について、ポイントを付与する係の人が直接確認しなければならない。このことから、段階的に理想を実現するために、加古川市が実施しているスマートフォン教室などで、この加古川アプリのインストールの支援をする際に、一緒に「楽天シニア」や「トリマ」などをインストールしてもらい、当面、「かこがわアプリ」による「ながら見守り」を実践してもらいインセンティブにし、「かこがわアプリ」を

普及させ、地域の防犯能力の向上につなげることができるようにする。今後、移動記録アプリ開発事業者と「かこがわアプリ」との連携を図ることを検討してもらい、さらには、見守りカメラの少ないゾーンなどでのポイントアップなどに移行するなど、段階的に実施できればと考えている。

「かこがわアプリ」が近隣市町に横展開できれば、既存の移動系ポイントサービスとの併用により、「かこがわアプリ」のインストールと「ながら見守り」のインセンティブが相乗効果を生むことで、加古川市内から市外に出入りする迷子や徘徊される傾向がある方の居場所を効果的に特定できる可能性が増す。また、加古川市の近隣市町では、高額な導入費用をかけずとも、見守りカメラと同等の機能を実現できる。さらに開発費を近隣市町とシェアすることで「かこがわアプリ」の継続につながる。これらにより行政サービスの向上を効率的に実現できる可能性がある。

【誰が・いつ・どこで？】

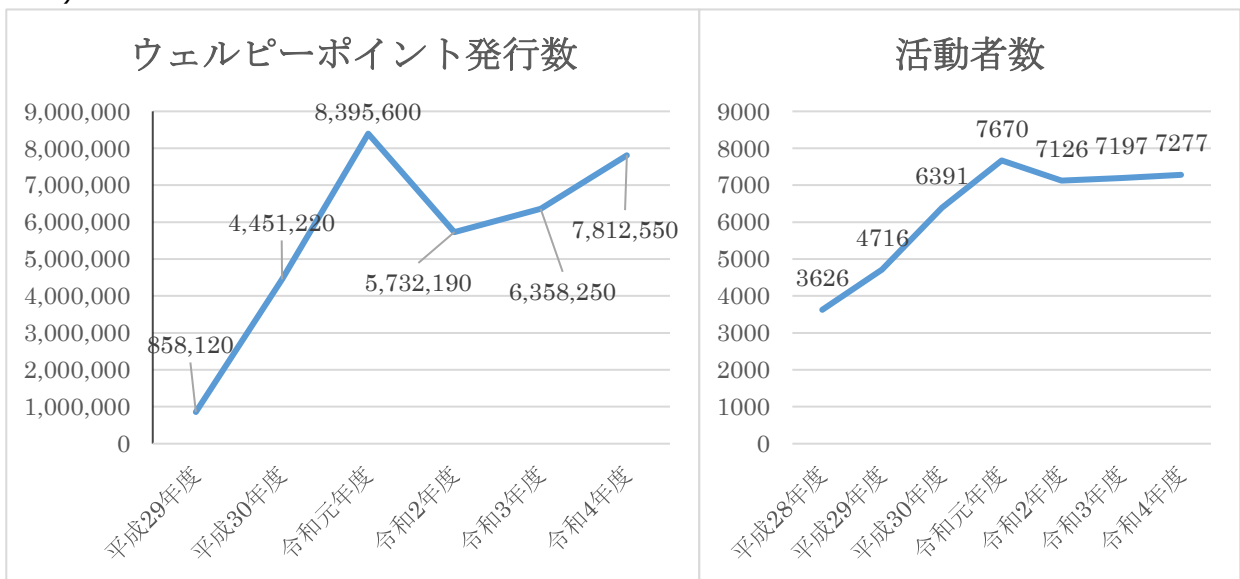
加古川市に住んでいる人が、学校の登下校の時間帯や、外出する予定がある時、ランニングやウォーキングをする時などに、「かこがわアプリ」を用い、見守りを行ってもらう。特に、登下校の時間帯、見守りカメラや人目が少ない場所を重点的に行ってもらう。

【メリット】

・犯罪行為のハードルが上がる ・運動促進 ・人が増えることにより ・迷子の人や体調が悪い人など、困っている人を助けやすくなる。 ・コミュニティ形成 ・活動していない人を検知し、健康状態の確認 ・親や高齢者の家族が安心できる など

【ウェルビーポイントの現状】

現在、ウェルビーポイントを獲得する方法は主に、学校園支援ボランティア、放課後子ども教室(令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため行っていない)、いきいき百歳体操の活動に参加することなどである。右下の図は、この3つの活動者の合計である。活動者数は平成28年度と比べると、令和4年は約2倍程度になっている。また、ポイント発行数は右下の図で、新型コロナウイルスの影響を受け、令和2年度は減少しているが、全体的に増加傾向である。(加古川市事務事業評価シート・加古川市ホームページのかこがわウェルビーポイント制度についてを利用)



次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説

明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

加古川市が公開している見守りカメラと BLE タグの位置情報から、それらの撮影および検知範囲であると考えられる 50m の範囲をとり、道路延長に対する検知範囲の比率を地域別にマップ化した。(図 1) その結果、圧倒的に北部での見地範囲のカバー率が低いという特徴がある。また、加古川市市民意識調査による、地域ごとの生活道路に関する安心安全の満足度について、「満足・やや満足」の回答者比率と、その道路縁のうち、見守りカメラが撮影および検知する範囲領域の総延長についてマップ化した。(図 2) その結果、加古川市北部の方が、南部に比べ、満足度が低いことが分かった。これは、道路の歩道部分などの整備状態の影響の可能性もあるが、見守りカメラの設置状況の差も少なからず影響していると考えている。以上のことから、見守りカメラの設置密度が低い地域に対し、その代わりとなるような施策を行う必要があるため、今回のアイデアが効果的だと考えている。

また、このアイデアを行うことによって、(1)のアイデア内容で挙げたような様々なメリットがある。特に、運動促進やコミュニティ形成、安否確認などは、単に見守りカメラを設置しただけでは得られない効果である。そして、加古川市北部の地域は、高齢者が多く、フレイル状態に陥りやすい年齢層の比率が高い。そこで、このような人々に、日常的な地域の見回り兼散歩を行ってもらうことで、フレイル予防につながる。また、根拠はないが経験的に、高齢者の方々は、地域の人とのコミュニケーションを大切にすイメージがあるので、歩いてもらうことを習慣化することによって、新しいコミュニティが形成され、地域活性化にもつながると予想している。コミュニティ形成のナッジ効果を生むように、空いている場所に一時的に椅子や机を設置することも効果的だと考えている。

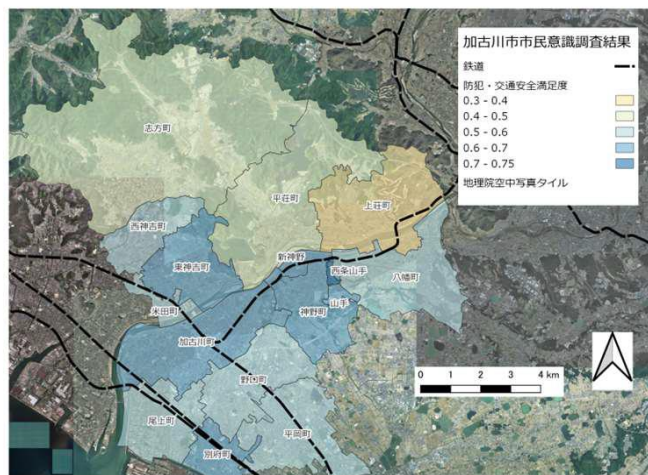
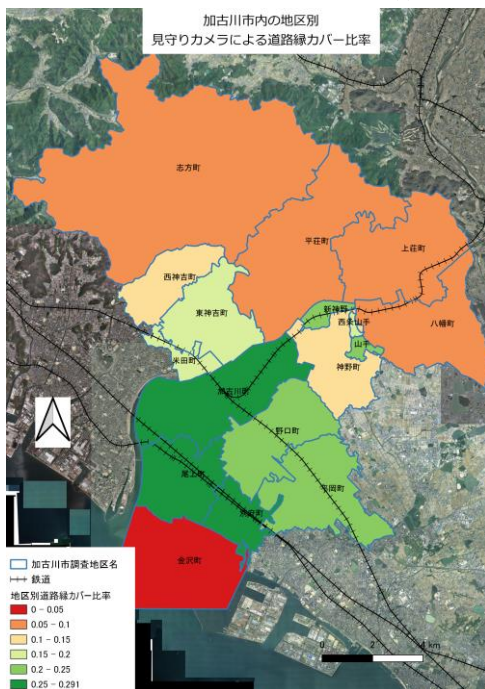


図 1 見守りカメラによる道路縁カバー比率

図 2 地域の安心安全に関する満足度

なお、図 1・2 の背景図としては国土地理院 地理院タイル空中写真を利用した。

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ） の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

今回のアイデアを行うために主に必要なことは、①「かこがわアプリに移動情報とポイントの結び付け」、②「ポイントの財源の確保」、③「この施策の広告」、④「実際に歩いてもらう人」の4つである。(1)アイデア内容で述べた通り、現実的に考えて、「かこがわアプリ」でいきなり理想的な施策を行うのは厳しいと考えている。したがって、**1段階目**に「ANA Pocket」や「楽天シニア」、「トリマ」などの移動情報をポイントに還元するアプリと、「かこがわアプリ」を併用する。そうすることで、アプリ開発費とウェルビーポイントの財源確保が抑えられ、段階的に始められると考える。**2段階目**として、1段階目に実施することに加え、見守りカメラが少ない場所を特定し、活動者にその地域を歩いたことを記録してもらい、その記録を提示することで、ウェルビーポイントを受け取ることができるようにする。手間はかかるが、ポイント増加による効果を確認することができる。**3段階目**に、「かこがわアプリ」を大幅改修し、アプリで、ウェルビーポイントと移動情報、BLE タグ検知器を同時にできるようにする。

【実施する主体】

<1段階目>

- 加古川市や兵庫県立大学チームなど。
- 地域住民

<2段階目>

- 加古川市や兵庫県立大学チームなど。
- 地域住民

<3段階目>

- 加古川市・ウェルビーポイントのアプリ開発関係者。「かこがわアプリ」の大幅改変。BLE タグ検知器機能に加え、歩行計測、ウェルビーポイントの付与の自動化機能の追加
- 加古川市
- 加古川市や兵庫県立大学チーム、協力が可能な民間企業など
- 地域住民

【実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）】

<1段階目>

- 「かこがわアプリ」と「移動情報からポイントに還元できるアプリ」のインストール
加古川市は スマートフォン教室で、今回のアイデアを紹介しアプリのインストールを促すことや、ホームページやSNSなどを活用した広告、各ポイント会社の比較を紹介することなどを行う。兵庫県立大学チームは、スマートフォン教室でのサポートや、その他の広告することの援助を行う。
- 見守りをする活動者
「かこがわアプリ」と移動情報をポイントに変えることができるアプリのインストールと設定。活動時に、「かこがわアプ

リの見守り機能を作動させる。活動する時間は自由ではあるが、できれば、登下校の時間や、見守りカメラや人目が少ない場所を重点的に行ってもらおう。

< 2 段階目 >

● **見守りカメラが少ない地域を特定**

見守りカメラの検知範囲のデータがあるので、それをもとに、兵庫県立大学チームが見守りカメラの少ない地域を特定する。それをもとに、加古川市と相談し、ウェルビーポイントが付与される地点を決める。

● **ウェルビーポイントを受け取れる地点での活動記録とその確認方法**

● **見守りをする活動者**

1 段階目に行ったことに加え、ウェルビーポイントを受け取れる地点での活動を記録すること、その記録をもとに、ウェルビーポイントを受け取る作業が必要である。

< 3 段階目 >

● **アプリ開発のための人材・費用**

私たちは、実際にアプリ開発の経験がないため分からないが、位置情報やポイント還元に関するアプリ開発をしている企業と連携することができれば、予算はある程度抑えられると考えている。また、アプリの機能が増え、便利になれば、今回の施策以外にも活用することが可能だと考えている。

● **ウェルビーポイントの財源**

仮に、加古川市全体ではなく、北部の地域で行ったとする。活動者 1 人が 1 日 1 円分のポイントを獲得したとし、加古川市北部の志方町、平荘町、上荘町の人口の総数は令和 5 年度で、17,517 人が住んでおり、その約 1/3 が活動を行うと仮定すると、ウェルビーポイントにかかる費用は 1 か月で約 17.5 万円、1 年で約 210 万円かかる。令和 4 年度の加古川市事務事業評価シートによると、ウェルビーポイント制度の事業に充てられた一般財源は、約 1138 万円なので、試作段階として、加古川市の見守りカメラが少ない地域に絞り、この施策を行えば、人件費を考えず、ポイントに必要なお金ののみを考えた場合、財政に負担はそこまで大きくないと考えている。また、「かこがわアプリ」の使用者が増えれば、アプリに地域の飲食店や、美容室などの広告を記載することにより、広告費として財源を確保することも可能である。

● **「かこがわアプリ」の使用方法的説明とその広告**

ホームページや SNS 等で、進化した「かこがわアプリ」の操作説明、見守りの仕方などを説明する。

● **見守りをする活動者**

見守り機能を作動させ、学校の登下校の時間帯や、外出する予定がある時、ランニングやウォーキングをする時などに、「かこがわアプリ」を用い、見守りを行ってもらおう。特に、登下校の時間や、見守りカメラや人目が少ない場所を重点的に行ってもらおう。

【実現にいたる時間軸を含むプロセス】

STEP1 「かこがわアプリ」と移動情報をポイントに還元するアプリの併用

STEP2 見守りカメラが少ない場所の特定し、その場所を通るとウェルビーポイントがもらえるようにする。

STEP3 「かこがわアプリ」をリニューアル

STEP4 進化した「かこがわアプリ」を使い、地域をパトロールしてもらおう。